

西日本豪雨災害で被災した真備の1年半の記録冊子(8000冊)の発刊

一般社団法人お互いさま・まびらボ

活動の目的

活動の目的は二つである。一つ目は、被災した真備の中で町内の約30の医療・福祉事業所の任意の会「真備地区関係機関・事業所等連絡会（通称：真備連絡会）」がどのような体験をし、どうやって要援護者への支援を続けながら町民との協働を模索してきたか、その記録を残すことである。そして二つ目は、12市町村にバラバラになった「みなし仮設住宅」に孤立する方々に、真備への想いをつなぐ冊子、「帰ってきてください、待っています」と「何か困ったらここ（お互いさまセンターまび）へ連絡してください」を伝える読みやすい冊子、元気が出る冊子を届けることである。「真備支え合いセンター」が見守り支援で巡回訪問されているが、未だに心配な世帯がたくさんある。そこへつながる一助としても役立てたいという想いからである。

活動の内容及び経過

活動の内容は、この1月から「真備連絡会」の中で冊子化への提案をし、原稿・写真を集めながら企画を練ってきた。それらを4月から冊子の企画委員の中でまとめながら、コンセプトも固まり、「真備連絡会」での承認をいただきながら素案を作成した。それを東京の「株式会社コトノネ生活」編集部レイアウトの依頼をし、そこからは手に取りやすい・読みやすい冊子としてブラッシュアップされ、「真備連絡会」の承認をいただきながら7月7日の発刊を迎えることができた。

活動の成果・効果

当初は3000冊の印刷予定であったが、ゲラ段階でも冊子の内容が素晴らしく、各方面からの高い評価をいただけたので、8000冊への増刷を決めた。「手に取りやすい冊子」「読んでみようと思える冊子」をコンセプトに7月7日に発刊し、7月11日に市役所内の記者クラブにて合同記者会見を行い、冊子の配布を開始したが、あっという間に広まり、現時点（8月15日現在）ですでに半数を配布することができた。倉敷市社会福祉協議会が運営する「真備支え合いセンター」の巡回見守り訪問支援で今後、本格的に配布される予定もあり、真備で被災された方々、ゆかりの方々、支援して下さった方々、そして全国の防災を考えるための資料として役立てると確信する。

今後の課題と問題点

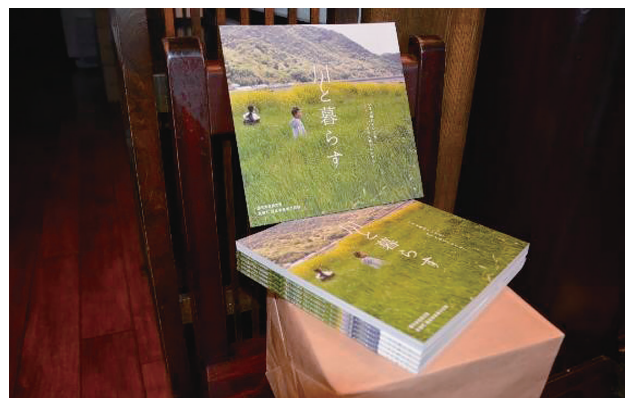
今後、第2冊目の発刊をめざして企画会議が始まっている。2冊目は、「数珠つなぎ」をテーマに、「数珠つなぎプロジェクト」で聞き取りを行った24件（26名）の記録を載



2020年7月14日 記者会見



2020年7月14日 記者会見



発刊冊子

せ、その後3年経った現在を語っていただき、また、「声の小さな人たち」・要援護者（障害者や高齢者）の声を集めて記録すること、座談会を開催してその記録を載せるなど、「つながり」をテーマに制作する方向が検討されている。

この二冊をセットにして全国に販売していき、私たちの被災体験を全国の方々にお伝えする予定です。

また、1冊目がなくなった場合は増刷する計画である。

問題点は資金調達である。

- 代表者：滝沢達史 ●所在地：倉敷市真備町箭田
- TEL：086-527-5897 ●E-MAIL：otagaisama1101@gmail.com
- URL：http://www.mabilabo.com
- 設立年：2019年 ●メンバー数：14名